

さいたま市防災カルテ

大宮西中学校区

①学区の概況と課題

◆学区の概要

- 【位置】西区の東部に位置し、北区と大宮区と隣接している。
- 【土地利用】学区内には住宅地が広がっており、中央部北寄りに警察署がある。
- 【交通】学区の中央部を新大宮バイパスが縦断している。

◆学区の位置



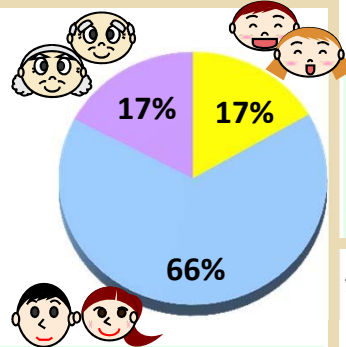
◆学区内被害想定結果

地震	さいたま市直下地震	関東平野北西縁断層帯地震	東京湾北部地震			
最大震度	6強 (6.3)	6強 (6.3)	6弱 (5.8)			
最小震度	6弱 (5.9)	6弱 (5.9)	5強 (5.3)			
死者	38人 (0.2%)	35人 (0.2%)	0人 (0.0%)			
負傷者	140人 (0.9%)	135人 (0.9%)	14人 (0.1%)			
避難者	7,121人 (45.0%)	6,786人 (42.9%)	59人 (0.4%)			
全壊建物棟数	2,376棟 (46.5%)	2,270棟 (44.4%)	5棟 (0.1%)			
うち焼失棟数	2,102棟 (41.1%)	2,016棟 (39.5%)	0棟 (0.0%)			
半壊建物棟数	778棟 (15.2%)	764棟 (15.0%)	137棟 (2.7%)			
水害	荒川	利根川	江戸川	芝川等	綾瀬川等	鴨川等
床上浸水建物棟数	567棟	0棟	0棟	0棟	0棟	2棟
床下浸水建物棟数	1,006棟	0棟	0棟	0棟	0棟	9棟

※震度のカッコ内は計測震度を、それ以外のカッコ内は学区内の比率を示す。

◆人口概況 (平成22年国勢調査)

	大宮西中学校区	全市平均
総人口	15,809人	
0-14歳	2,618人 (17%)	(14%)
15-64歳	10,468人 (66%)	(67%)
65歳以上	2,723人 (17%)	(19%)
人口密度	5,887人/km ²	5,766人/km ²



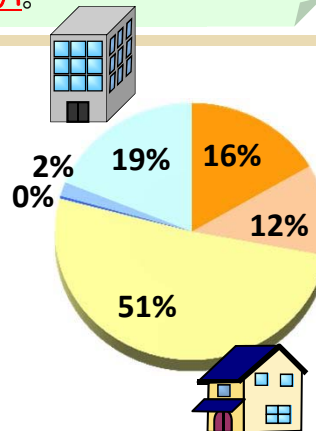
- 【地震】さいたま市直下、関東平野北西縁断層帯のどちらの場合でも、**地区の約60%が全壊・半壊の被害**を受け、**地区の約40%にあたる建物は焼失**する恐れがある。
- 【水害】荒川が氾濫した場合、**地区の30%以上が浸水被害**を受ける。

◆防災関連施設情報 (平成26年2月時点)

種別	名称
避難場所	大宮西中学校、大宮西小学校、三橋総合公園体育館
一時・広域避難場所	三橋総合公園、青葉公園
市・区役所等窓口	三橋支所
消防署・出張所	大宮西警察署、三橋交番
警察署・交番	
救急病院	
応急給水場所	大宮西小学校、大宮西中学校

◆建物概況 (平成23年度さいたま市都市計画基礎調査)

	大宮西中学校区	全市平均
総建物棟数	5,110棟	
木造(昭和46年以前)	843棟 (16%)	(17%)
木造(昭和47-55年)	588棟 (12%)	(12%)
木造(昭和56年以後)	2,614棟 (51%)	(45%)
非木造(昭和46年以前)	16棟 (0%)	(1%)
非木造(昭和47-55年)	90棟 (2%)	(3%)
非木造(昭和56年以後)	959棟 (19%)	(21%)



◆被害想定結果からわかる防災上の主なポイント

- 【耐震化】多くの建物被害が想定されているため、**耐震化率の向上が必要**。
- 【火災】火災焼失の危険性が高い地区となっており、避難や初期消火体制等での**自主防災組織等、共助の活性化が必要**。
- 【避難者】避難者の割合が高いため、**避難施設の充実及び運営体制の確保が必要**。

全市平均と比較すると、**14歳以下の若年層が多い**。

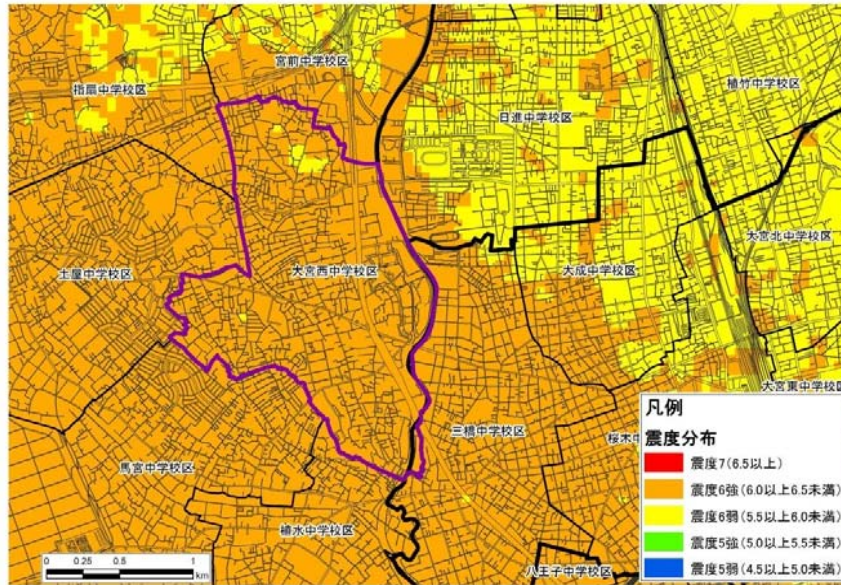
全市平均と比較すると、**新しい木造建物の割合が大きい**。

②さいたま市直下地震の想定 **さいたま市防災カルテ**

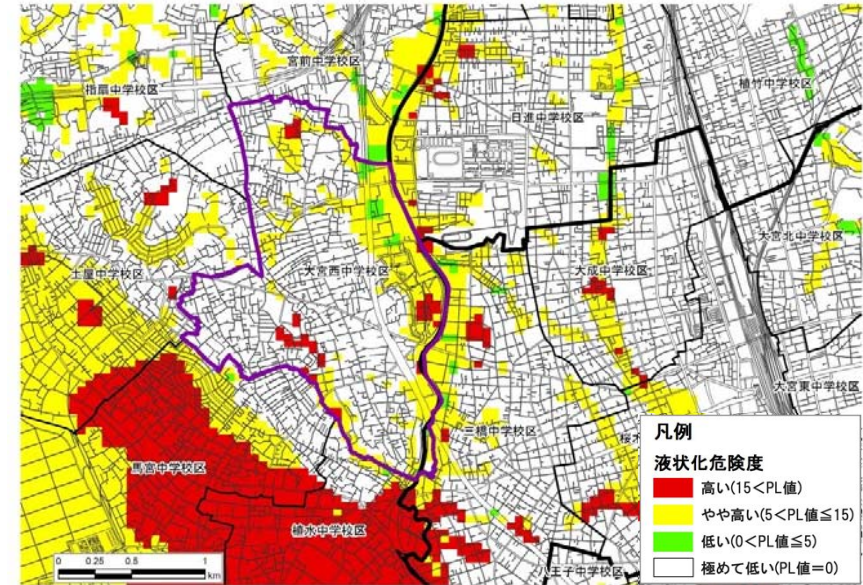
大宮西中学校区



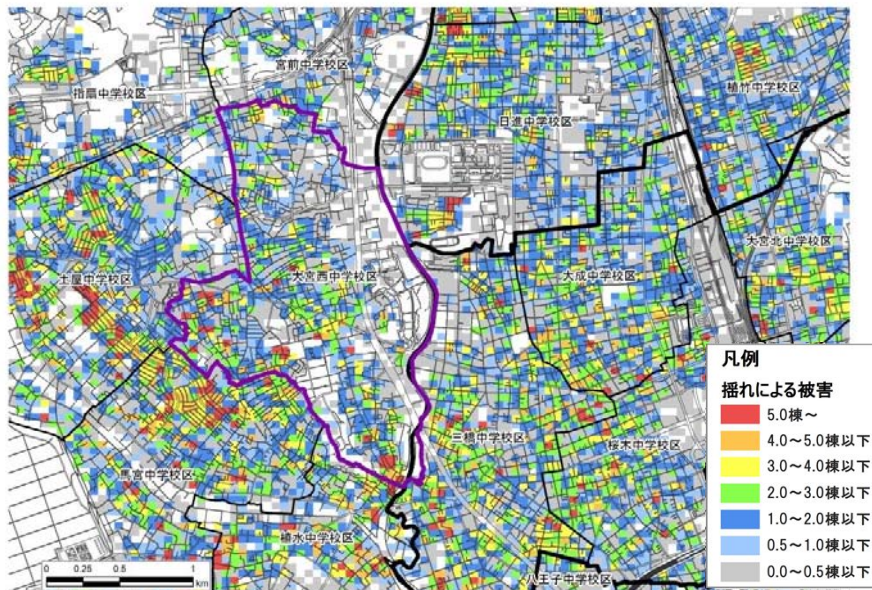
震度分布図



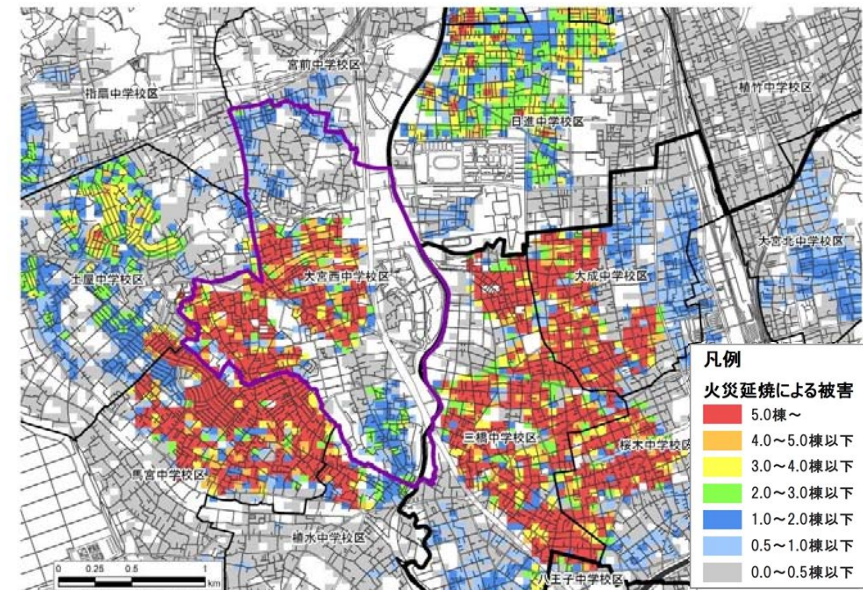
液状化危険度分布図



建物被害分布図（揺れによる被害）



建物被害分布図（火災延焼による被害）

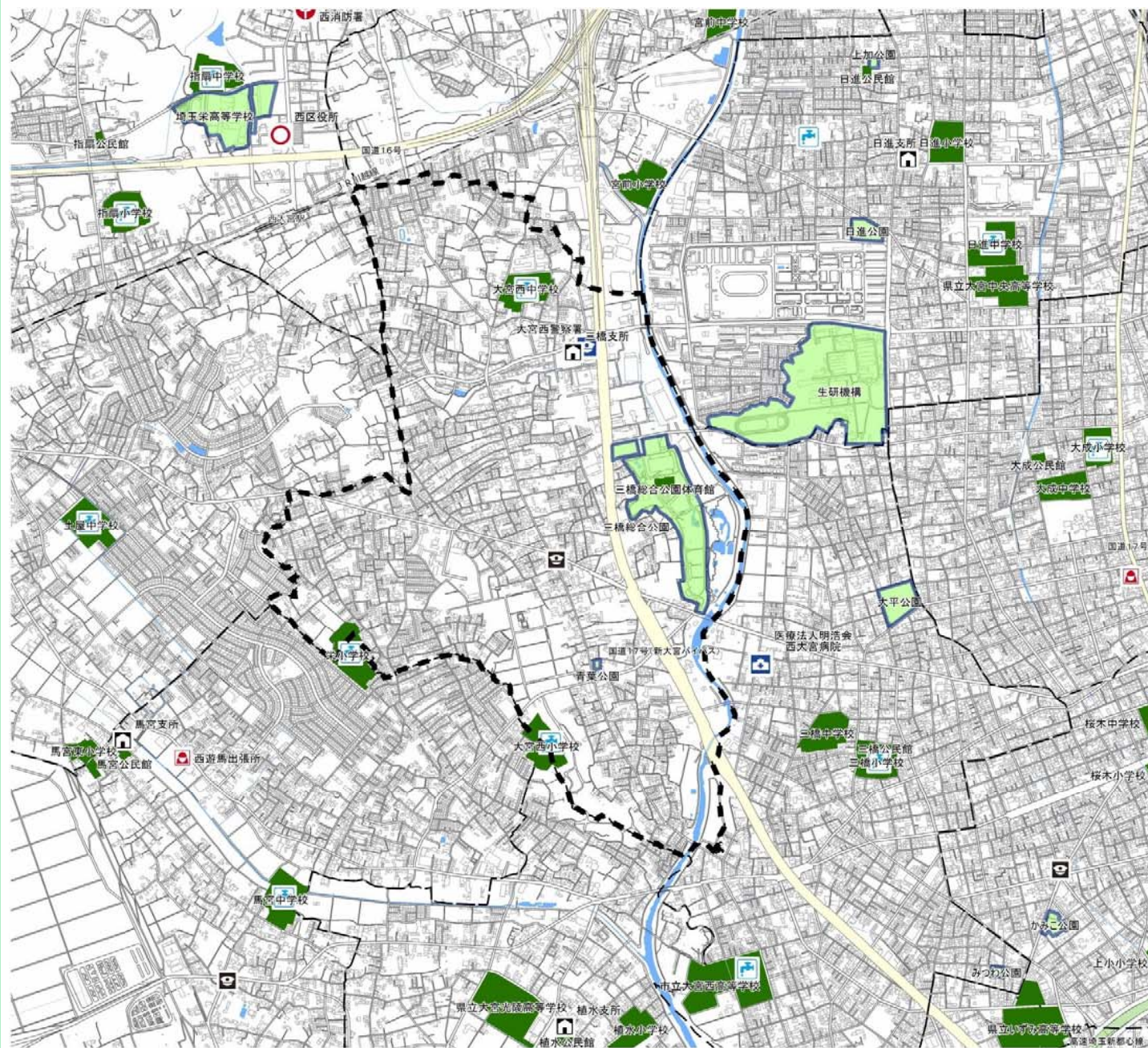


本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話してみよう。

③防災マップ

さいたま市防災カルテ

大宮西中学校区



凡例

	避難場所		消防署
	一時避難場所		消防署(出張所)
	広域避難場所		警察署
	市役所		交番・駐在所
	区役所		救急病院
	支所・市民の窓口		応急給水場所

(平成26年2月時点の情報で作成)

メモ欄

